

## 映像と台本を連動させた演劇練習支援システム

山下亮輔 井上亮文 市村哲

東京工科大学

## 1 背景

現在でも舞台芸術(演劇, ミュージカル etc)は根強い人気がある。

ところで, 舞台劇術は一度本番が始まると本番が終わるまで途中で止めることができない。そのため, 一度でもセリフを間違えてしまうとその公演は成功とは言えなくなってしまう。本番で失敗しないためには完璧にセリフを憶える必要があり, セリフを憶えるためには数多くの練習を積み重ねる必要がある。

そこで本研究では舞台芸術の中でも特に演劇に着目し, セリフを憶える練習を支援するシステムを開発する。

## 2 演劇練習に関する問題点

上述のように練習を重ねることでセリフを完璧に憶えることができれば, 本番での失敗は限りなく少なくすることが可能である。しかし, 役者および演出家のスケジュールが一致せず練習できない, 本番までに日数が少ないために練習が多く組めない等の理由で十分な練習ができない場合がある。そこで, 役者が練習日以外の日に台本を読むことなどで事前にセリフを憶えることが必要となってくる。つまり, 十分な練習が行えない場合, できるだけ早くセリフを覚えることが本番で成功を収めるためのカギとなる。

## 3 アンケート調査

現状の問題点を踏まえ, どのような練習をすることで効率よくセリフを憶えることができるかをアンケート調査した。調査項目は以下の2つである。

質問1: セリフが憶えられるのはどんな時か

質問2: なぜ憶えることができると思うのか

アンケートは東京工科大学演劇部 11 名に対して行った。まず質問1については, 9 名が練習時によく覚えることができる(グループ A)という回答をし, 2 名が一人で台本を読むとき(グループ B)と回答した。

次に各グループに対して質問2を尋ねた。

質問2の結果を表1に示す。

表1 質問2に対する回答

	回答結果
グループ A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 相手が存在するので会話のリズムでセリフを憶えることができる。</li> <li>• 実際に身体を動かすことでセリフが身に付く。</li> </ul>
グループ B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一人で読むことで集中することができる</li> </ul>

## 4 提案

アンケート調査に基づけば, 役者は立ち稽古に近い状況で練習することでより効率的にセリフを覚えることができると考えられる。そこで本研究では, 役者の個人練習を支援するために練習風景を撮影した映像と台本を連動させた個人練習用のシステムを開発した。

A play-practice support system  
that synchronizes video and script  
Ryosuke Yamashita, Akihumi Inoue,  
Satoshi Ichimura  
Tokyo University of Technology

## 4.1 撮影映像と台本の連動

より立ち稽古に即した個人練習をするために本システムでは映像を用いる。実際の練習を行った際に練習時の風景を録画しておき、データベースに記録された台本のセリフと同期を取って保存しておく。

撮影は DV テープを使用したビデオカメラを用いる。DV テープには撮影すると自動的にタイムスタンプが記録される。このタイムスタンプは台本と同期を取る際に利用される。

また、データベースに保存した台本は撮影映像の時間に合わせて時間情報を入力し、映像と連動させる。この手作業は一度だけ必要になる。

以上のように映像と台本を連動させることで、映像だけでなくセリフからでも任意の場所を検索することが可能となり、練習する役者は任意の場면을練習することができる。

## 5 実装

映像と台本を連動した演劇練習支援システムを開発した。本システムには、基本機能として以下の機能が実装されている。

- 映像に合わせた台本の自動スクロール
- 台本からの映像検索機能

本システムの処理の流れを図 1 として示す。

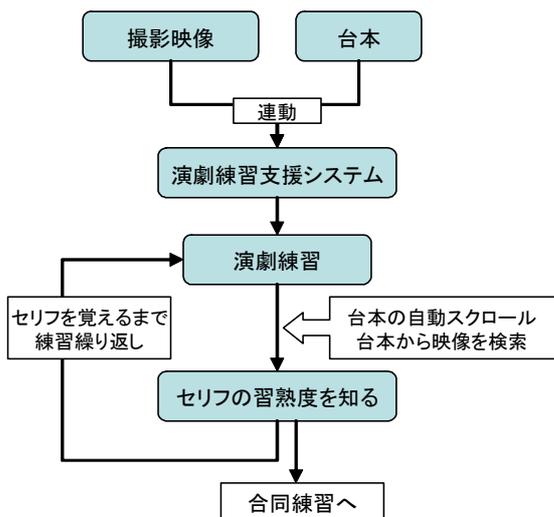


図 1 システムの流れ

また、より効率的な練習をするために、役者の習熟度に合わせた練習メニューを追加機

能として実装した。追加機能は以下のとおりである。

- 役者別練習  
選択された役者がセリフを発するタイミングになると映像が一時停止する。
- ミュート練習  
全体もしくは役者名を選択すると、該当するタイミングで映像の音声をカットする。
- セリフ非表示練習  
セリフを非表示にし、映像と音声のみを表示する。

これらの追加機能を組み合わせることで、より難易度の高い練習を実現することができ利用者の習熟に合わせた練習をすることが可能となっている。

以上の機能を実装したアプリケーションを図 2 として示す。



図 2 演劇練習支援システム

## 6 まとめ

本システムによって、演劇における個人練習の向上を目指した。今後の予定として、現在のシステムでは台本の登録が手動で行われているため手間がかかるという問題点がある。これらを自動化、簡略化するようなアプリケーションを作ることによってこの問題点を解消していきたい。

### 参考資料

- [1] 演劇ならインターネット研究所  
<http://www.e-geki.net/>